



第3回 フェリス女学院大学

日本文学国際会議

私たちが迎えた21世紀は、残念ながら「戦争の世紀」として記憶された20世紀の残滓を引きずるところから始まったと言えます。私たちが、いまだ国家、民族、宗教、人種、地域、政治体制、ジェンダー、階級、身分といった枠組みにとらわれ、他者に対する寛容さを身につけることができていない今こそ、「戦争」についての様々な言説を、文学作品、絵巻、写真、映画、記録、報道などメディアを手掛かりとして、「戦争」に関わるイデオロギーを検証したいと考えています。

入場無料

2004年11月12日(金)・13日(土)

フェリス女学院大学緑園キャンパス・8号館グリーンホール

[12日(金)]

戦下の演芸—落語・漫才・話芸の戦争体験

李 建志氏(県立広島女子大学助教授)

ニュージーランドに於ける非核政策と

井伏鱒二「黒い雨」、林京子「祭りの場」

千種 キムラ・スティーン氏(ニュージーランド・カンタベリー大学教授)

永井隆博士と長崎原爆

頼 振南氏(台湾・輔仁大学教授)

「わたつみの声」の戦争

朴 裕河氏(韓国・世宗大学助教授)

ベトナム現代文学と戦争

加藤 麻子氏(フェリス女学院大学非常勤講師)

基調講演

『戦時下の女性像—女性表象と戦争』

若菜 みどり氏(川村学園女子大学教授)

[13日(土)]

日露戦争と芥川龍之介の政治意識

—「少年世界」を中心として—

曹 慶淑氏(フェリス女学院大学大学院生)

「春秋」と「鄭一家」における共同幻想論

王 姿雯氏(台湾・輔仁大学大学院生)

小林よしのりの

「わしズム」における戦争のレトリック

シャート・ザイフェルト・アネッテ氏(ドイツ・ライプツィヒ大学助教授)

戦前中国における日本語教育

—台湾・満洲・大陸での展開と変容に関する比較考察

徐 敏民氏(中国・華東師範大学教授)

敗戦をふりかえる眼差し

—林芙美子「浮雲」における小説と映画

紅野 謙介氏(日本大学教授)

特別報告 戦争の傷跡

大石 芳野氏(フォト・ジャーナリスト)

同時開催

大石芳野写真展
「戦争の傷跡」

11月1日(月)～13日(土)

10:00～17:00

フェリス女学院大学附属図書館



声・映像・ジャーナリズム —メディアの中の戦争と文学

主催



フェリス女学院大学

URL <http://www.ferris.ac.jp>

日本文学国際会議事務局／〒245-8650 神奈川県横浜市泉区緑園4-5-3

TEL:045-812-9129 FAX:045-812-8273

〈横浜駅より相鉄いずみ野線「緑園都市」(快速17分) 駅下車徒歩3分〉